



2016-2017年度 R I 会長

ジョン F. ジャーム

第2720地区ガバナー 前田 眞実

第2720地区ガバナーエレクト 永田 壮一

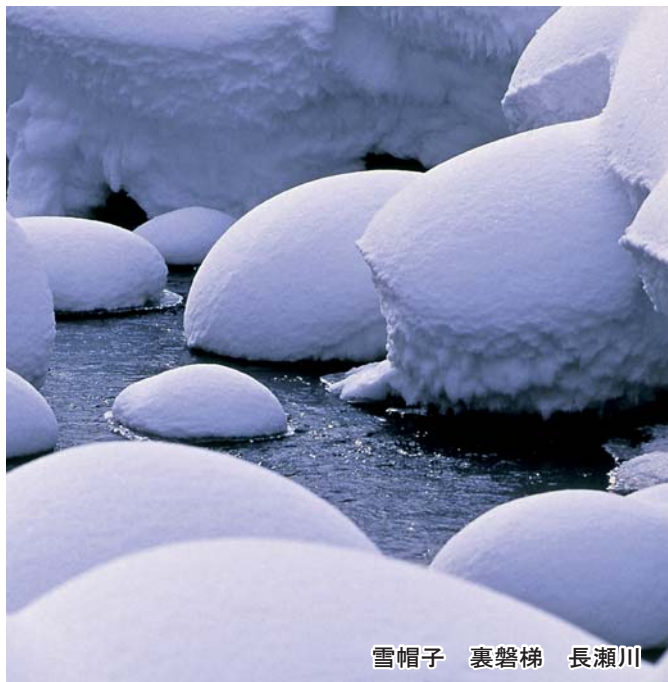
大分第3グループガバナー補佐 小野 哲夫

第2720地区 大分第3グループ

別府東ロータリークラブ

例会日：毎週木曜日 12時30分
 例会場：別府市観海寺 杉乃井ホテル
 事務所：別府市西野口1番1号
 〒874-0931 (青山通りビル3階)
 TEL (0977) 23-9000
 FAX (0977) 23-9019
 E-mail: info@beppu4rc.jp
<http://www.beppuhigashi-rc.jp/>

会長 竹内 孝夫 幹事 一力 秀次
 広報委員長 瑞木 一博



雪帽子 裏磐梯 長瀬川

第1809回例会

VOL. 38-No. 27 2017年2月9日

－ 平和と紛争予防／紛争解決月間 －

■ 点 鐘 12時30分

■ ロータリーソング 君が代・我らの生業

■ 唱 和

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

■ ビジター 佐藤憲幸 (大分城西)

■ ゲスト

森 憲司氏

((公社) 別府青年会議所 第42代理事長)

中根 竜氏 (" 専務理事)

松本久美子氏

(フリーアナウンサー／ことの葉クローバー 代表)

■ 会長の時間 会長 竹内 孝夫

みなさん、こんにちは。会長の時間です。

本日は別府青年会議所 第42代理事長 森 憲司氏、
 別府青年会議所 専務理事 中根 竜氏、フリーアナ
 ウンサー／ことの葉クローバー代表 松本久美子氏

■ 出席報告

本	会員総数	40名	ゲスト	3名
	出席数	20名	ビジター	1名
日	欠席数	12名	出席率	62.50%
前々回の出席率		72.41%	修正出席率	79.31%
		100% 通算 1578回		

出席規定免除(b): 千壽、岩瀬、黒岩、杉本、西、
 檀上、持永、坂本

名 誉 会 員: 西村

■ メイクアップ

事前 瑞木 (別府)

事後 (第1807回例会)

但馬 (別府)

■ 欠 席

安部、渡辺、笠木、但馬、山下 (唱)、梅津、西、
 沼田、後藤、高橋、中塚

※中村忠孝会員入会

の皆様がゲストにいらっしゃっています。

また、中村忠孝さんの新会員入会式を行います。
これで別府東RCも40名になりました。

さて今日は、今進めている改善委員会の進捗状況の説明をします。私の会長就任時に将来のロータリー運営の為、不透明な部分等を一度改善委員会で取り上げて協議、決定の後、理事会承認をうけて会員皆様に伝える仕組みになっています。

御存知のようにロータリーの最高意思決定機関は理事会となります。今までの改善委員会で取り上げた内容を理事会承認をうけ例会で報告をしています。欠席をする方や報告を聞いていない方などから一部意見がありましたが、今後もこの流れを変える事はありません。各会員は例会での報告はしっかり聞いておいてください。

今までの決定事項をもう一度確認します。

○改善委員会⇒理事会承認⇒例会発表案件

①ロータリー定款変更による別府東RC細則決定案件

・現状の運営を基本維持する為に細則決定

②国際奉仕活動、海外RCとの今後の交流方針

・韓国RC（姉妹クラブ）

・済州中央RC、釜山釜星RC

（友好クラブ）ニュー釜山港RC

荒金会員から孫元会員を通じて連携をとりましたが、継続する意思はないとの事⇒会員数減少等より

・台北昇陽RC

5月24日で3年の契約が切れます。

2月25日に台湾を訪問し継続の話し合いをする。

当クラブも相手クラブも継続の意思あり

⇒細部調整

③例会場に対する案件～前年より引き継ぎ案件

・継続審議。ただし杉乃井ホテルより4月からの1,500円ランチ受注のお断り

現状は通常は杉乃井、1,500円ランチはサンバリーに変更して対応する

○今後の課題は

・会費活用の再検討 ・会員研修制度

様々な課題がありますが今期中にある程度の方性をつくりあげます。

■ 幹事報告

幹事 一力 秀次

本日は、ロータリー財団事業「ポリオ撲滅」の為に用途指定寄付積立てに向けた『1500円ランチ』（第8回目）を実施します。会員皆様方のご協力をお願い致します。

1. 第8回定例理事・役員会報告（平成29年2月2日（木）11：45～於杉乃井ホテル10名出席）

審議事項

1号議案）新会員候補者（中村忠孝氏）の推薦者／アドバイザーの件 ＊工藤恵美会員を選任承認

2号議案）奉仕プロジェクト「聖母マリアガーデン」施設整備の件

1回目：例会後／平成29年2月20日（月）13：00～

＊芝張・ヤマボウシ植栽予定

新 入 会 員 入 会 式



氏 名 中村 忠孝（なかもら ただたか）
生年月日 昭和39年1月9日 53歳
事業所 (有)九州舞台総合美術 代表取締役社長
職業分類 イベントサポートサービス
（Events Support Service）
所属委員会 親睦委員会
推薦者 工藤恵美会員



工藤アドバイザーへ委嘱状

＊例会は12：30～光の園（道路側建物2F）
美術館にて開催

2回目：作業のみ／平成29年3月初旬

＊花壇花植え予定

3号議案）東保房雄会員退会に係るロータリー財団副委員長選任並びに「姉妹クラブ交流金特別会計口座」代表者名変更の件

＊ロータリー財団副委員長に坂本敦委員を選任承認

＊「姉妹クラブ交流金特別会計口座」大分銀行→みらい信用金庫に移行。又、代表者名は榊田 浩次年度奉仕プロジェクト委員長を選任承認

4号議案）杉乃井ホテルから4月時より「1,500円ランチ（1,620円）」の受注不可能連絡の件

＊4月20日（木）よりポリオランチ（1,500円）はホテルサンバリーアネックスへ変更

5号議案）第1回定例理事会承認の【前年度ニコボックス予算外徴収分を「40周年記念事業積立」に資金移動】する件

＊「40周年記念事業」「国際奉仕委員会（姉妹クラブ交流）」へ各50万円の移動を承認

6号議案）RI 3480地区台北昇陽扶輪社を訪問し今後の交流について内容確認の件

訪問日 2017年2月25日（土）～26日（日）

参加者 会長・幹事・国際奉仕・副会長・副幹事
5名 *自費にて訪問
7号議案) 2017-2018年度会長エレクト研修セミナー (PETS) 参加者再考の件
日 時 2017年2月25日(土)~26日(日)
＜25日(土)PETS＞
13:00~18:00/交流会19:00~
＜26日(日)PETS＞ 9:00~12:00
場 所 ＜セミナー＞くまもと県民交流館パレ
ア9階「会議室1」
＜懇親会＞熊本ホテルキャッスル
*次期会長が参加不可能な為、代理者を沼田守生
(次々期幹事)に選任承認

確認・報告事項

○例会スケジュールの確認

2月＜平和と紛争予防／紛争解決月間＞

2月2日「福ことば・毒ことば・置きことば」
フリーアナウンサー 松本久美子氏
9日「別府青年会議所と私」
(公社)別府青年会議所 第42代理事長
森 憲司氏
16日「新会員歓迎会」
18:30~ホテルサンバリー「まるや」
23日⇒20日(月)「造園作業」
12:30~光の園グループホーム

3月＜水と衛生月間＞

3月2日「ゲスト卓話」
えとう動物病院 院長 江藤 毅氏
9日⇒11日(土)「大分第3グループIM」
14:30~亀の井ホテル 17:30~懇親会
16日「第4回クラブ協議会」
23日⇒20日(祝月)「奉仕プロジェクト:開園式」
12:30~光の園グループホーム
30日「港湾周辺の清掃活動」(予定)
担当:安部 勇社会奉仕委員長

○別府市隣7RC親睦ゴルフコンペ開催
(ホスト:別府東)

2. 第6回臨時理事・役員会報告
(平成29年2月2日(木)持ち回り)

審議事項

1号議案) 新会員候補者について推薦資料受理
並びに職業分類の新規開設の件

中村忠孝氏 新規開設「イベントサポート
サービス:Events Support Service」

3. 本日、12:00~杉乃井ホテルに於いて「新会員
の為のインフォメーション」を開催しました。

出席者:竹内孝夫、樽谷壽生、梅野 保、長野勝行、
久保田高史、石田啓三、工藤恵美、一力
秀次 各会員

4. 「ロータリー財団年次寄付(11月レート10,200円/12月レート10,600円)」「米山奨学特別寄付(10,000円)の申し込みをされた方で、ご失念の方が数名おられます。クラブ立替にて送金しています。確定申告用の寄付領収書をお渡ししたいので、至急納入をお願いします。

5. 例会変更のお知らせ

○別府RC:2月17日(金)の例会は『ボウリング
例会』の為、2月18日(土)15:00~スギノイボウル

《2017-2018年度 地区チーム研修セミナー》

日 時 平成29年2月11日(土) 13:30~17:30
場 所 熊本市市民会館シアーズホーム夢ホール

※荒金信治次年度ガバナー補佐、工藤恵美次年度
地区職業奉仕委員会委員のご参加をよろしく
お願いします。

に開催日時・場所変更

○別府中央RC:2月21日(火)の例会は『夜例会』
の為、2月20日(月)18:30~(場所未定)に開催
日時・場所変更

○中津平成RC:2月23日(木)の例会は『夜間例会』
の為、同日19:00~グランプラザ中津ホテルに
時間変更

○大分東RC:2月23日(木)の例会は『夜の例会』
の為、同日18:30~丸福に時間・場所変更

○大分南RC:2月24日(金)の例会は『夜の親睦
例会』の為、同日18:30~(場所未定)に時間・
場所変更

6. 次回(2月16日)の例会予定

「新会員(尾方義顕会員・工藤晴生会員・中村忠孝
会員)歓迎会」

※18:30~ホテルサンバリー「まるや」に時間・
場所を変更して開催致します。

多数のご出席をお願い致します。

7. 本日の回覧 ①新会員歓迎会(2月16日)出・
欠席 ②地区補助金社会奉仕プロジェクト「光の園」
造園奉仕作業 出・欠席(2月20日) ③「大分第3
グループIM」出・欠席(3月11日 *3月9日
例会を変更) ④地区補助金社会奉仕プロジェクト
「光の園」開園式例会 出・欠席(3月20日) ⑤
ロータリー手帳購入申し込み ⑥杵築RC週報

8. 本日の配布 ①週報No.1808

■お祝い

会員誕生日 久保田高史会員(2月12日)

皆 勤 山下 唱徳会員(2月4日=1年)

■ニコボックス

委員長 山下布美代

○大分城西RC 佐藤憲幸氏 今日(2月19日)の
職業奉仕のプロジェクト参加への要請にお伺い
しました。よろしくお願いします。1口

○榊田 浩会員 森理事長、中根専務、ようこそ
別府東RCへ。森理事長の素晴らしい卓話を期待
して、西 謙二、瑞木一博、梅津 亮、但馬 建、
榊田 浩、長野勝行、久保田高史 各会員、理事長
経験者として2口ずつ。石田啓三、岩瀬公男、
神田 剛、工藤恵美、中塚茂次、沼田守生、尾方
義顕、山下唱徳、工藤晴生 各会員1口ずつ。
西 貴之君はプロ長なので3口、よろしくお願いします。

○久保田高史会員 (音響(CD)に不具合)けっ
してわざとではないのですが、確認不足で2口
します。

別府青年会議所と私

(公社)別府青年会議所 第42代理事長 森 憲 司 氏



皆様こんにちは、本日は別府東RCの例会に招待頂きまして、まことに有難う御座います。

諸先輩方を前に恐縮ではございますが、指名でありますので卓話をさせていただきます。申し遅れましたが、公益社団法人 別府青年会議所 第42代理事長を仰せつかっております

森 憲司と申します、どうぞ宜しくお願い致します。

まずは私の会社の紹介からさせていただきます。社名を株式会社森工機といい、別府市荘園のほうで営業をさせて頂いております。弊社は建設業の中でも、管工事業を営んでおり、主に給排水衛生設備工事や空調換気設備工事、別府市やその他の公共工事を請け負わせて頂いております。それと株式会社武藤電機という送風機メーカーの九州地区では唯一の指定工事店をさせて頂いております。設立は昭和51年3月で、昨年をもって40周年を無事に迎える事ができました。これも弊社に携わって頂いている方々のおかげだと日々感謝しております。私は高校卒業後に弊社に入社し、先代と共に現場で働かせて頂きました。先代は私が28歳の時に67歳の若さで肺がんで亡くなり、それから1年後の29歳で代表取締役就任しました。就任してからは、いろいろな方々からの心のこもった御指導を頂き、勉強をさせて頂きながら経営を続けております。しかし、就任後こんなに先代の背中が大きく見えたことはありませんでした。改めて、居なくなって気付く先代の偉大さに気付かされました。この経験をしっかりと胸に留め、経営理念である「私たちは私たちに携わるすべての人(地域社会)を豊かな心にするため、最大限の努力・鍛錬を惜しまず、私たちの存在意義を果たします。」のもと、社業の発展に努めて行きたいと思っております。

私がまだ現役で作業していた20代前半には先代からよく怒られていたことを思い出します。早く先代に認められようと、当時は指名入札のランクがBクラスだったのですが、Aクラスに上げれば先代から認めてもらえると思い、必死で働きました。Aクラスになるためには、2年平均で1億円以上の売上高と資格者が必要でした。資格者は足りていたので、売上高を上げるためにどんな仕事でも受入、また営業も積極的に行ったわけではありませんが、仕事ぶりを見ていたお客様から次々と仕事を頂くようになり、1日3～4現場を廻り、朝早くから夜中までの作業を数年間続け、私が25歳の時にようやくAクラスに上がることができました。この時期の労働が一番きつい経験をさせて頂きました。その時の従業員数は5名でしたが、現在では売上高も大きく伸び、従業員数も10名となりました。今思うと先代から認めてもらいたいと必死でがんばったことが、亡くなる前に先代の夢を叶えることに繋がったと思うと少しでも親孝行ができたと思っております。

それでは別府青年会議所の紹介をさせていただきます。青年会議所というのは、明るい豊かな社会の実現に

向け活動する20歳から40歳までの青年の団体です。事業年度は1月から12月なので、私も来年の12月には卒業します。任期も1年ですから、また来年には新しい理事長の下、新体制が出来上がり新たな年度がスタートします。青年会議所は、40歳までという限られた時間と1年という限られた任期の中で活動を行う団体ですから全力疾走できる場所が良いところではないかと思います。

私が青年会議所に入会したのは2007年の8月でした。当時理事長よりJCバッチを頂き、不安と熱い想いが交錯する中、私のJC人生がスタートしました。入会した翌月より当時委員長が企画立案した「ベトナム フォンソン村貢献事業」に参加させて頂きました。事業説明をさせて頂きますと青年海外協力隊であるジャイカのみなさんが活動している小さなフォンソン村の保育園に木製のアスレチック遊具を製作にいくという事業でした。私は委員会内でアスレチック遊具製作担当として、みんなに説明するための模型や製作図面、加工図面の製作を行い、現地では製作班長として活動させて頂きました。その保育園には外で遊ぶ遊具が何一つない保育園で、我々が作るアスレチック遊具を子供たちは楽しみにしているようでした。そして製作に取り掛かりましたが、湿度が高く、気温も40℃近い状況での過酷な作業の中、予定内に完成することができました。子どもたちが楽しそうに完成した遊具で遊んでいるその時のことでした、小さな使い古したクレヨンと紙切れをもった保育園の子どもが、我々の元にやってきて、サインがほしいと、言葉は通じませんが身振り手振りで言ってきました。その姿を感じた時に、人のためにすることの大切さと心が浄化されていく感覚に気づかされました。あの子どもたちの笑顔を出すと心がリセットされてJC運動に取り組む励みとなっています。また、東日本大震災の発災の際には、西田先輩が企画立案した「別府あったかプロジェクト」に参加させて頂きました。事業説明をさせて頂きますと、被災された宮城県南三陸町に別府の温泉を運び、現地の被災した方々に別府温泉に入ってもらおうという事業でした。私が担当したのが現地での風呂づくりと、温泉をタンクローリーで陸送するため温度が冷めた場合の温める設備を考え、現地に設置することでした。現地ではまだライフラインが復旧する前で、風呂に入れない被災者の方々がたくさんいました。そして資材を積んだ車で別府を出発しました。ダイヤモンドフェリー様のご協力で神戸まではフェリーで、それから南三陸町までは陸路で行かせて頂きました。今でも思い出しますが、現地についた瞬間の津波による凄まじい光景と匂いに胸が締め付けられる思いが蘇ります。その後、風呂とタンクの設置を完了し、第一便の温泉が到着しました。そして被災者の方々に入浴して頂きましたが、皆様が笑顔で入浴されている顔を見るといろいろあった問題を解決し、被災地まで来てやって良かったと強く感じました。この事業にご協力してくださった方々のおかげでこれより数か月間、別府温泉を

運ぶことができました。大変ありがとうございました。また、私が別府青年会議所創立35周年で委員長をさせて頂いた時には、記念事業部会長として、記念事業を担当させて頂きました。福岡県糸島市で行われている野外イベントであるサンセットライブは3日間でアーティスト50組以上が参加し、入場者は3万人を超えるイベントですごい集客性をもっていました。糸島市の風景は別府市によく似ており、こういうイベントが別府でも出来たらいいなと思い、これを記念事業にしようと決めさせて頂きました。そしてサンセットライブを始めた方に話を伺に行きました。すると元々はレストランでしていたイベントが徐々に人が入れなくなり、野外であるようになったということでした。その方は糸島市に対する経済効果を認められ、イベントを開催する会場のビーチを無料提供されていました。その話を参考にさせて頂き、準備に取り掛かりましたが、予算がまったく足りず、アーティストも決まらない状況が続き、大変苦勞をいたしました。会場は別府国際観光港隣の、当時新しく完成したビーチで行い、オープニングイベントとして開催する運びとなりました。その中別府青年会議所の仲間の絆を知りました。協賛金集めや当日のステージ設営、アーティストの送迎から雑用までメンバー全員で最後まで取り組んでくれました。結果的に日本各地から約2,000人の来場者により開催することが出来ました。創立記念事業としてメンバー全員がいろんな形で参画して頂けたことは、私にとって大きな財産と経験になりました。この事業にご協力頂きました諸先輩方をはじめ関係者の方々に対しまして、改めてお礼と感謝を申し上げます。また2013年には公益社団法人日本青年会議所本会の領土領海委員会に出向させて頂き、日本各地に多くの仲間を作らせて頂きながら、領土領海についての勉強をさせて頂きました。一番の思い出は私が所属していた委員会で作成した領土領海プログラムが、文部科学省の公式プログラムに認定されたことでした。この認定を受けることで学校でのプログラムの実施が可能となりました。このプログラムをこの場所でさせて頂きたかったのですが、準備の都合上、間に合いませんでしたのでまたの機会に宜しくお願い致します。我々が行う運動は、市民意識変革団体として、気づきを与え、気づきを頂くことだと強く感じました。今後も、必要とされる別府青年会議所を築き上げていきたいと思います。

本年度は、年初会員37名でのスタートとなり、思うように新入会員が増えていない現状が続いており、深刻かつ急務な問題となっております。民主主義の根底にある「数はちから」というように大きな波を作るのもすべては「人」です。そして、我々の運動が地域に根付いたとき、市民の皆様から必要とされる価値が生まれ、我々の存在意義が問われていくのだと感じます。また、必要とされる運動を展開していくことが、会員一人ひとりの企画力、判断力、行動力を身につけることになり、真のリーダーの育成に繋がると確信しています。

本年度のスローガン「ONLY ONE」～すべてはひとつのために ひとつはすべてのために～を掲げさせて頂いております。我々のまち別府には数々のオンリーワンが存在するまちであります。まずは地域でのオンリーワンが別府青年会議所であることが、地域に魅力が伝播して、活気あふれる

まちづくりに繋がると確信しています。そして、各委員会での担いの中でオンリーワンを見つけ出す事業を展開して参ります。また、そうすることでこのまちのすべてと繋がり、飛躍していき、このまちに生まれてよかったと思えるまちづくり、ひとづくりを行って参ります。そして、急務の問題である会員拡大も、別府青年会議所の魅力を対外的に発信しながら、前年度から引き継いだ手法をさらに進化させ、取り組んで参ります。さらに、事業を行っていく中で、さまざまな経験を積み、真のリーダーの育成は元より、次代のリーダーをも育成して参ります。また、本年度は節目でもある第50回大分ブロック大会が別府青年会議所主幹にて開催されます。県内外より注目を受ける中、別府の元気とおもてなしの笑顔九州各地に発信できるような記念すべき大会にしたいと考えております。そして、会員一同が同じベクトルに向うためにも、積極的に花見やスポーツ交流を行い、仲間のために心を動かすような絆で結ばれた会員交流をさまざまな手法を使いながら行って参ります。さらに、現在の子供たちは社会環境の変化や家庭環境の変化などにより家族間の交わりが希薄化し、またゆとり教育等もあり、自分で考え行動する子供が減ってきていると共に誰かから指示を受けないと何もしようとしない他力な無責任主義が蔓延していると感じます。これは子供たちが大人になり、社会に出た際に致命的な人格に繋がってしまいます。自分で考え行動をおこす自立を学ぶ青少年育成事業を行っていきたいと考えております。また、我々は中華民国陽明山國際青年商會と大韓民国木浦青年会議所と姉妹締結を結んでおります。近年では大韓民国木浦青年会議所との子供たちによるサッカーや野球交流が盛んに行われております。本年度も4月頃に野球大会を木浦の地で開催するよう計画を進めております。子供たちにはここでしか体験できない貴重な経験をして頂ければと考えております。しかし、事業を行う上での必要な資金もないのが現状です。諸先輩方に問題解決の教えを賜り、両JCともに今後さらに進化した構築型の交流事業を模索して行きます。そして、別府市は「国際観光温泉文化都市」を掲げる世界からみても資源豊かな都市であります。別府の財産でもある留学生と連携を図り、既存財産再開発のまちづくりに繋げ、多方面に発信していきます。さらに、私が入会して間もない頃の別府青年会議所は規律と誇りある別府青年会議所だったことを覚えております。あたりまえのことをあたりまえにすることは難しいですが、再度規律と誇りある別府青年会議所へと導いて行きたいと思います。

最後になりますが、私自身も、この青年会議所運動を通じて様々な人と出会い、そして貴重な経験をさせて頂き、社会人として貴重な経験を積むことができたと感じています。また青年会議所で学んだことを社業にも取り入れさせて頂いております。私は青年会議所の事業で出来ないことは無いと思っています。出来ないことも努力して出来ることへと導いていく勉強をするのも青年会議所だと感じます。少ない会員ではありますが、本年度会員50名を目標に掲げ、あと17名の会員拡大を目指して今年一年間取り組んで行きたいと思います。何卒、ご子息やお知り合いの方で意欲のある方がいましたら、ご紹介頂きたいと思います。

御清聴ありがとうございました。

ロータリーが誕生したころ

今月号の表紙は、いつもと違った雰囲気であつた方も多かったかもしれません。しかし、毎月、本欄をお読みくださっている新会員の皆さんは、そこに写っているのが誰なのか、すぐにお気づきになったことと思います。そうです。12月号の本欄で紹介した、ロータリーの創始者ポール・ハリスです。

ではなぜ今月号の表紙がポール・ハリスなのかおわかりですか。それは、2月23日がロータリーの創立記念日だからです。1905年のこの日、ポール・ハリスは3人の仲間と会合を持ちました。その時の4人が、横組みの表紙を飾っているメンバーです。

左から、シルベスター・シール、ポール・ハリス、ハイラム・ショーレー、ガスターパス・ローアです。

ポール・ハリスは、シカゴでの生活は孤独であつたと述べています。そして、「ある晩、私は同業の友人に連れられて、郊外の彼の家を訪れました。夕食後、近所を散歩していると、友人は、店の前を通るごとに、店の主人の名を呼んで挨拶するのです。これを見て私は、ニューイングランドの私の村を思い出しました。そのとき浮かんだ考えは、どうにかしてこの大きなシカゴで、さまざまな職業からひとりずつ、政治や宗教に関係なく、お互いの意見をひろく許しあえるような人を選び出して、ひとつの親睦関係をつくれぬものだろうか、ということでした。こういう親睦関係ができれば、必ずお互いに助け合うことになるはずですよ」と、著書『ロータリーへの私の道』に書いています。

その考えをしばらく一人で温め、後に前述の会合を持ちました。これが、後に200以上の国と地域に広がり、約3万5,000のクラブと120万人以上のクラブ会員を有するようになったロータリーの初めの一歩でした。

この会合は、シカゴのダウ

ンタウン、ユニティ・ビル711号室、ローアの事務所で開かれました。残念ながら今、そのビルは残っていませんが、跡地前の歩道には、そのことを記した小さなプレートが埋め込まれています。また、現在、エバンストンにある国際ロータリー世界本部の1階にその部屋が再現されていて、見学することができます。

ポール・ハリスは同書に、ロータリーについて次のように書いています。「シカゴという大都会に集まった、この小さなグループの会員にとって、ロータリーは砂漠のオアシスのようなものでした。彼らの集会は、今日のほかのクラブの集会とは違って、もっと親密であり、はるかに友情がこもっていました。面倒な、意味のない制約は振りすてられ、もったいぶったとりつくろいは入口で断られます。会員たちはみんな少年に戻るわけです。私にとって、クラブの集会に出席することは、あの谷間の家に帰るのと同じことだったのです」

「あの谷間の家」というのは、彼が少年時代を過ごしたウォーリングフォードの祖父の家のことです。「砂漠のオアシス」「なつかしい故郷」、皆さんにとって、例会は、クラブは、そのような場所になっ

ているのでしょうか。入会して間もない人は「とんでもない、緊張の連続ですよ」とおっしゃるかもしれません。しかし、時間の経過とともに、少しずつ例会が居心地の良い、ほっとする時間になることを願っています。

「果報は寝て待て」と言いますが、ロータリーでは寝ているわけにはいきません。積極的に例会やその他のクラブ活動に参加して、先輩会員に積極的に話しかけてください。皆さまの行動が、ロータリーをオアシスにする鍵になるのです。

『友』編集長 二神 典子

